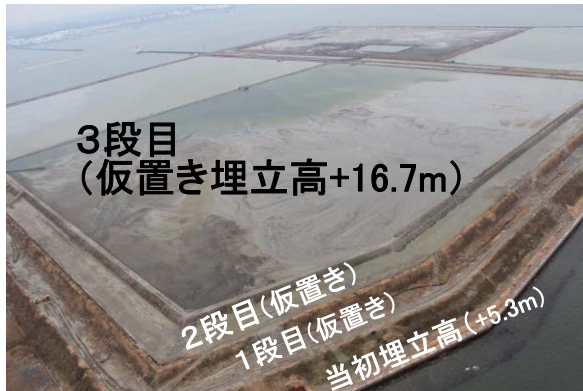


名古屋港浚渫土砂の新たな処分場確保 ～名古屋港の中長期的な発展を支える 新土砂処分場計画の具体化に向けて～



現在の土砂処分場: 1975年(昭和50年)より浚渫土砂を処分



年間100万m³強を土砂処分、
4階建てビル相当の土砂仮置き
※数年先には処分限界の見込み

名古屋港の利用船舶の大型化(例)と浚渫工事の必要性



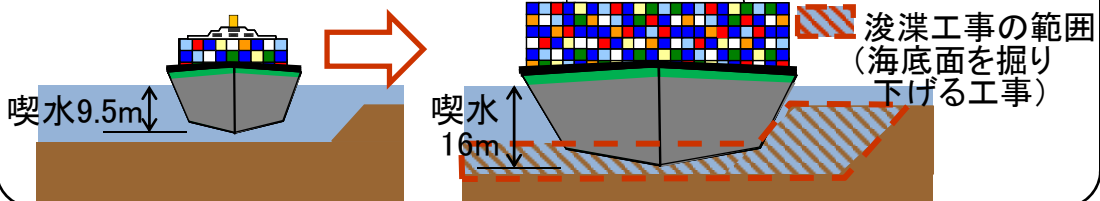
箱根丸(～1970年代中頃):
コンテナ積載量752個*、
全長175m、喫水9.5m



エマ・マースク(2006年～): コンテナ積載量
11,000個*、全長398m、喫水16m

大量の浚渫土砂が発生

*長さ20フィート(約6m)の
コンテナで計算。



平成24年10月

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所



名古屋港の機能強化・維持を40年間支える浚渫土砂の処分場 ～役割と課題～

土砂処分場(ポートアイランド)の役割

名古屋港では、以下の浚渫工事からの発生土砂の処分が必要。

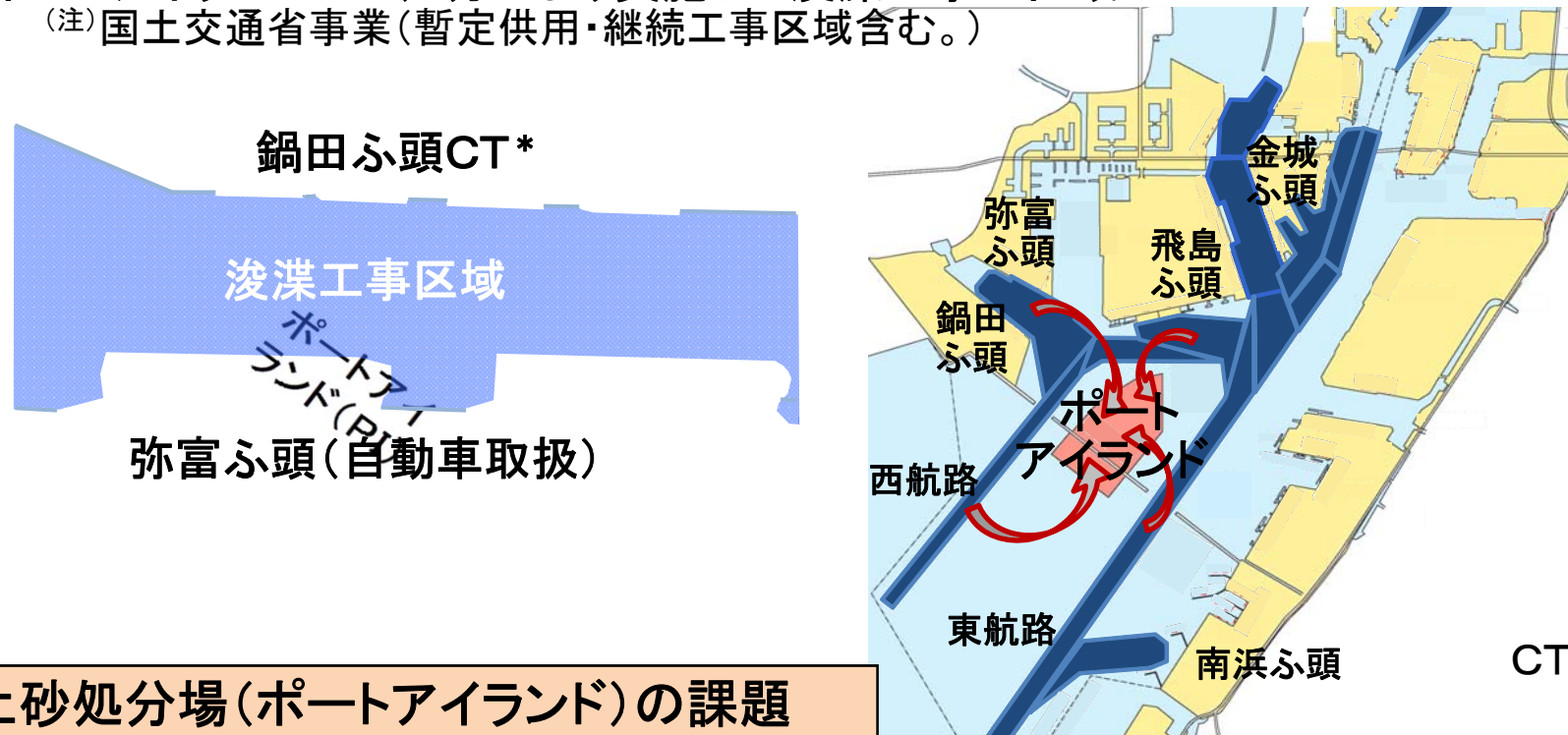
- 利用船舶の大型化への対応**： 航路(船の通り道)や泊地(船の停泊場所)の海底を広く・深く掘る工事。
- 港湾が浅くなることを防止**： 海底に堆積する河川からの流入土砂を取り除く工事。

約40年間、ポートアイランドで処分(1975年(昭和50年)～)。

- 名古屋港(航路・泊地等)の機能強化・維持**を支える。
 - ー 国土交通省は累計約5千万m³の浚渫・土砂処分ー
 - ー 近年の処分量100万m³強/年(ダンプトラック17万台分以上)ー
- 名古屋港の**貨物量2.1倍**、**貿易額4.2倍**。
 - ー 0.9億トン → 1.9億トン、3兆円 → 13兆円ー

ポートアイランドへの処分により実施した浚渫工事の区域(注)

(注)国土交通省事業(暫定供用・継続工事区域含む。)

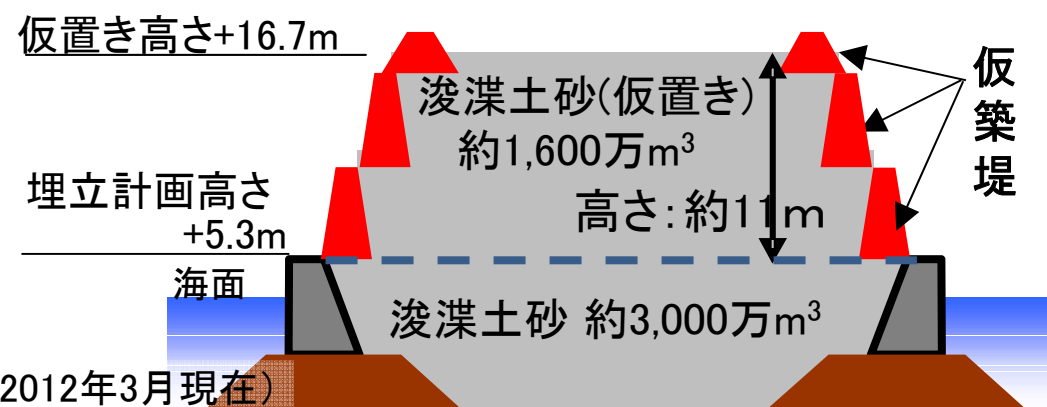


CT*:コンテナターミナル

土砂処分場(ポートアイランド)の課題

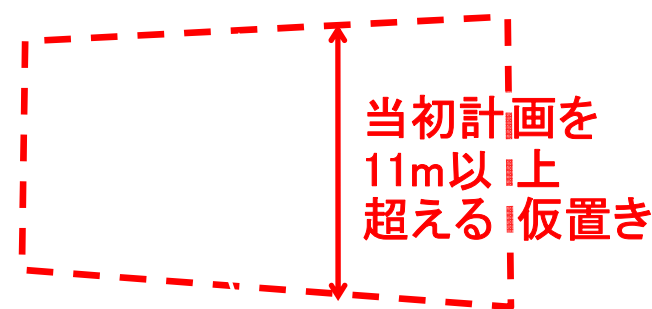
- 階段状に仮築堤を築造、当初の埋立計画高さ(+5.3m)を大きく超える高さ(+16m以上)まで仮置き処分中。
- 処分容量の限界(残り数年分)、仮築堤・仮置き土砂の大規模地震・津波時の安定性(東日本大震災を踏まえ最新の知見で検証中)等を考慮し、**中長期的な名古屋港の発展を支える新たな土砂処分場の早期確保**が不可欠。

浚渫土砂の仮置き状況(断面図)



(2012年3月現在)

4階建てビル相当の仮置き



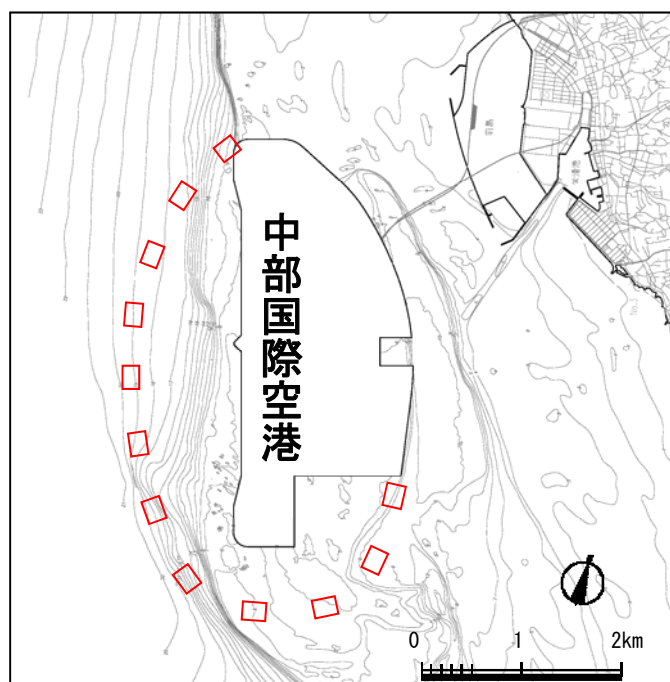
高さが増すに従い、変形の抑制が難しくなるため、現在の高さを大きく超えた仮置きは困難

仮置き土砂の予想外の変形



名古屋港外での候補地検討 ～中部国際空港沖が有力～

- 高度利用される名古屋港内に、大規模な土砂処分場の新たな計画は極めて困難。
- 港外（陸域と海域4カ所^(注)）の候補地の比較検討等を実施。
（2010年(平成22年)6月開始）
- 第三者委員会の助言、住民の意見募集を踏まえ、「**中部国際空港沖**」を**有力な候補地**としたところ。
(注) 中部国際空港沖、四日市港内、伊勢湾中央部深場、海洋投棄(伊勢湾外)



【土砂処分場の概ねの検討範囲】

今後の進め方 ～新土砂処分場計画の具体化に向けて～

- 引き続き、新土砂処分場の**位置・規模・形状の具体的検討**にあわせて、**漁業や環境などへの影響についての検討**を進める。

